

四国の特徴、課題

1. 四国の特徴

個性ある多様な地域が存在(自然環境や産業集積等)

美しい自然と、農山漁村など人々の営みの存在

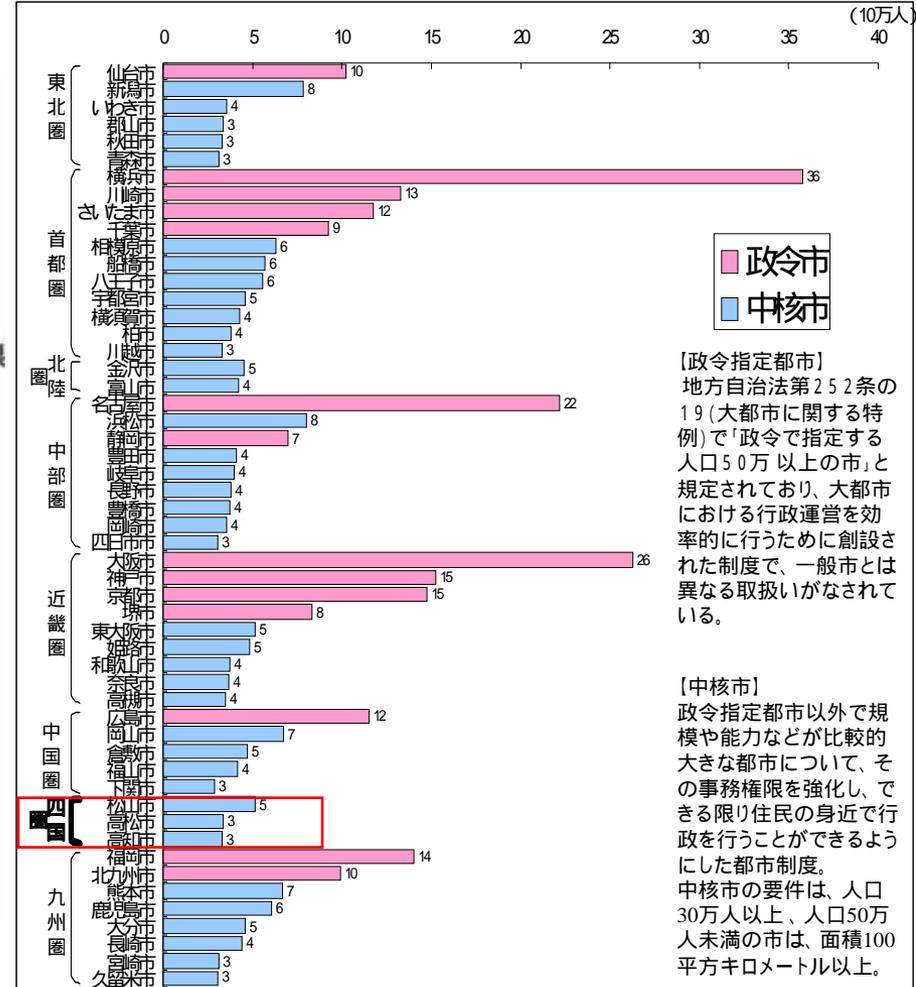
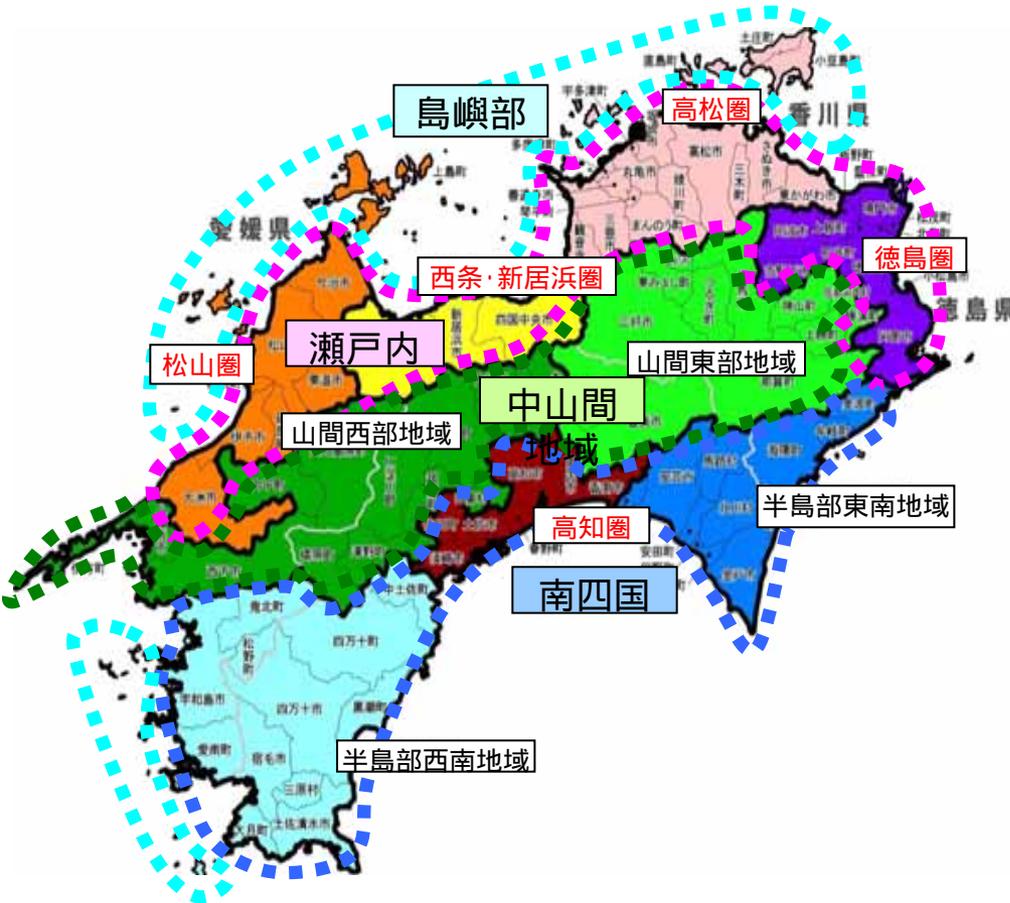
独自の歴史、文化が存在

概ね90分で県庁所在都市と結ばれる地域が多い

1.四国の特徴

個性ある多様な地域が存在

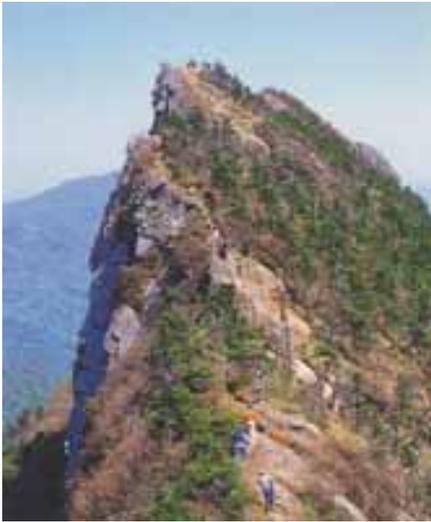
- ・100万都市は存在しないが、30万～50万規模の都市圏が複数存在
- ・多様な中山間地域、島しょ部が存在



1.四国の特徴

個性ある多様な地域が存在(自然環境)

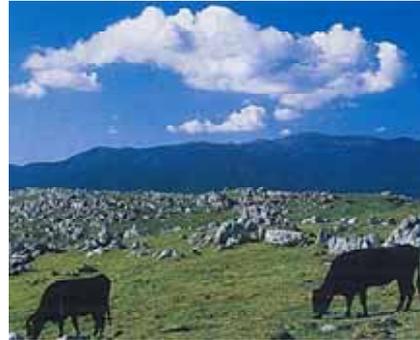
・瀬戸内海の多島美、急峻な地形がつくる自然美(清流、渓谷、海岸、山々)



石鎚山(愛媛県)



寒霞渓(香川県)



四国カルスト(愛媛県)



瀬戸内海



鳴門の渦潮(徳島県)



大歩危・小歩危(徳島県)



四万十川(高知県)



見残し海岸(高知県)

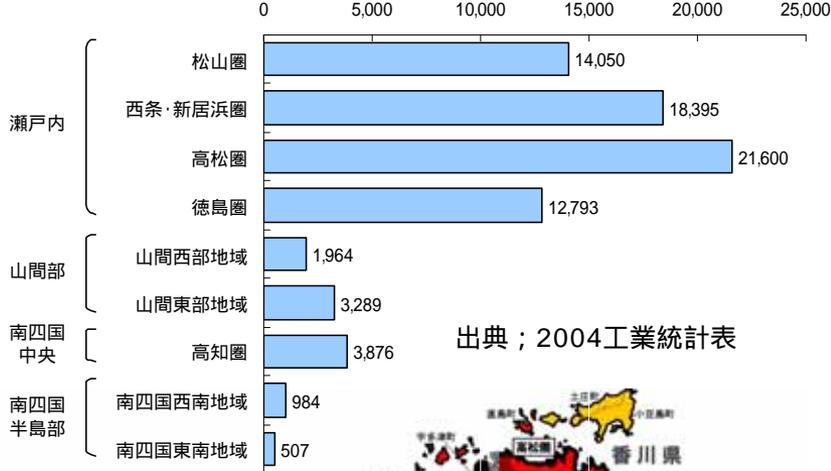
1.四国の特徴

個性ある多様な地域が存在(産業集積)

- ・瀬戸内海側における産業集積
- ・日本一、世界一のシェアを占める企業が数多く存在

<地域別製造品出荷額等>

工業製品出荷額 (億円)

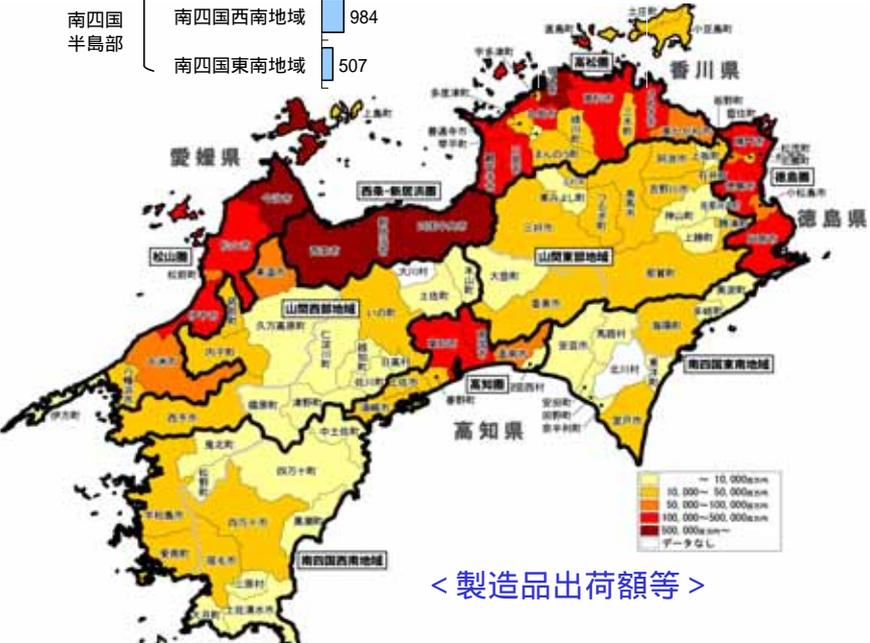


出典；2004工業統計表

<シェアNo1企業の立地状況>



出典；四国経済産業局HPより



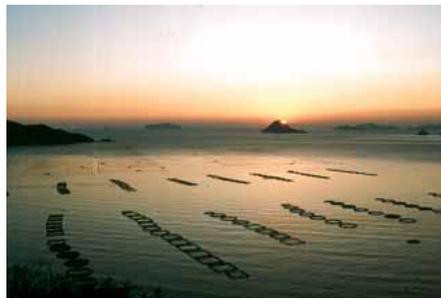
<製造品出荷額等>

	日本一	世界一
徳島県	<ul style="list-style-type: none"> 阿波製紙(株) 自動車用濾紙の生産 大塚製薬工場 輸液製品の生産 	<ul style="list-style-type: none"> 日亜化学工業 LED、蛍光体の生産 河野メルクロン シンビジウムの種苗の生産
香川県	<ul style="list-style-type: none"> 加ト吉 冷凍食品(フライ、麺類など)の生産 タダノ 建設用クレーン、車両搭載型クレーンの生産 南海プライウッド(株) 住宅用ラミネート(プリント)天井板の生産 	<ul style="list-style-type: none"> 東洋炭素(株)炭素事業所 等方性高密度黒鉛の生産 日プラ(株) 水族館用大型アクリルパネルの生産 西原金属工業(株) 水晶デバイスセラミックパッケージ用封着シールの生産 光ビックアップ用半導体レーザー向けガラス端子用パーツ生産
愛媛県	<ul style="list-style-type: none"> 大王製紙(株)三島工場 単一工場での紙・板紙の生産 ユニ・チャーム(株) 紙おむつ・生理用品の販売 住友金属(株)山形愛媛工場 金の生産 	<ul style="list-style-type: none"> クラレ(株)西条(株) 液晶偏光用ピロニウムフィルムの生産 ハリソン東芝ライティング(株) 液晶バックライト用冷陰極放電灯、ウエッジベースランプの生産 住友化学工業(株)愛媛工場 高純度アルミナ、半導体封止材用エポキシ樹脂の生産 帝人化成(株)松山工場 DVD用ポリカーボネート樹脂の生産 東レ(株)愛媛工場 高性能炭素繊維の生産
高知県	<ul style="list-style-type: none"> 兼松エンジニアリング(株) 強力吸引作業車の生産 日鉄鉱業(株)鳥形山鉱業所 石灰石の生産量 	<ul style="list-style-type: none"> 高知カシオ(株) デジタルカメラ用TFT液晶モニターの生産 ニッポン(株)高知(株) 電解コンデンサ用セレータの生産

1. 四国の特徴

美しい自然(日本の原風景)と農山漁村など人々の営みがある
・中山間地域の集落における美しい景観や歴史・文化の存在し、日本の原風景が残されている。

< 美しい自然と人々の営みが醸し出す風景、個性的な歴史・文化の存在 >



宇和海の養殖いかだ
(愛媛県宇和島市)



しかむらみぞ
四ヶ村溝の水車
(高知県四万十市)



奥祖谷の二重
かずら橋
(徳島県三好市)



みかん段々畑
(愛媛県八幡浜市)



遊子の段畑
(愛媛県宇和島市)



八日市・護国の
まち並み
(愛媛県内子町)



かんざいに
神在居の千枚田
(高知県構原町)



本島町笠島集落
(香川県丸亀市)

1. 四国の特徴

独自の歴史、文化が存在

・お遍路やお接待文化等の四国共通の歴史・文化に加え、ボランティア活動も盛んである。

< 四国伝統の普請やお接待の精神 >

古来より四国では、満濃池普請など、地域の人々が勤労奉仕により、地域の共有財産の普請活動を行ってきた。

さらに、1200年を誇る文化遺産である遍路文化があり、その底流にある“お接待”の精神も“普請”の精神と共通点を持っている。

現在も、地域のボランティアの手で遍路道の修復が行われ、今も“普請”の精神が受け継がれている。



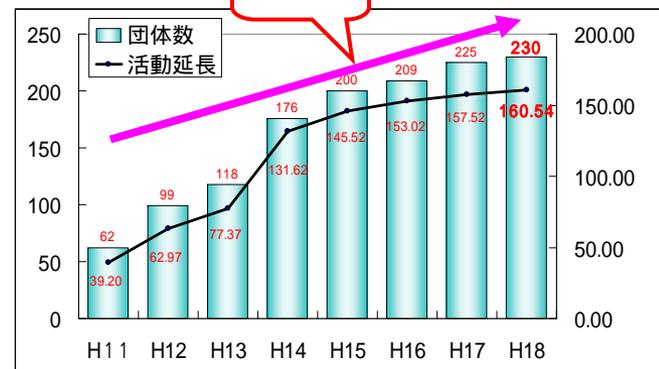
四国伝統のお遍路文化とお接待の精神



遍路道修復のボランティア作業

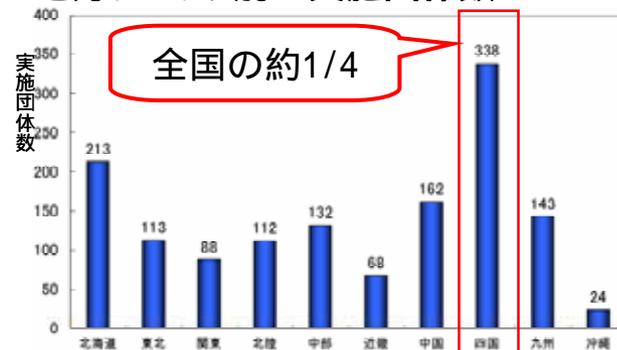
< 四国ボランティア活動状況 >

河川アドプト活動状況



河川アドプト活動状況 (H18. 12月現在)
 H18の場合 = $\frac{\text{河川アドプト延長 (160.54km)}}{\text{直轄区間における左右岸延長 (570.2km)}} = 28.2\%$

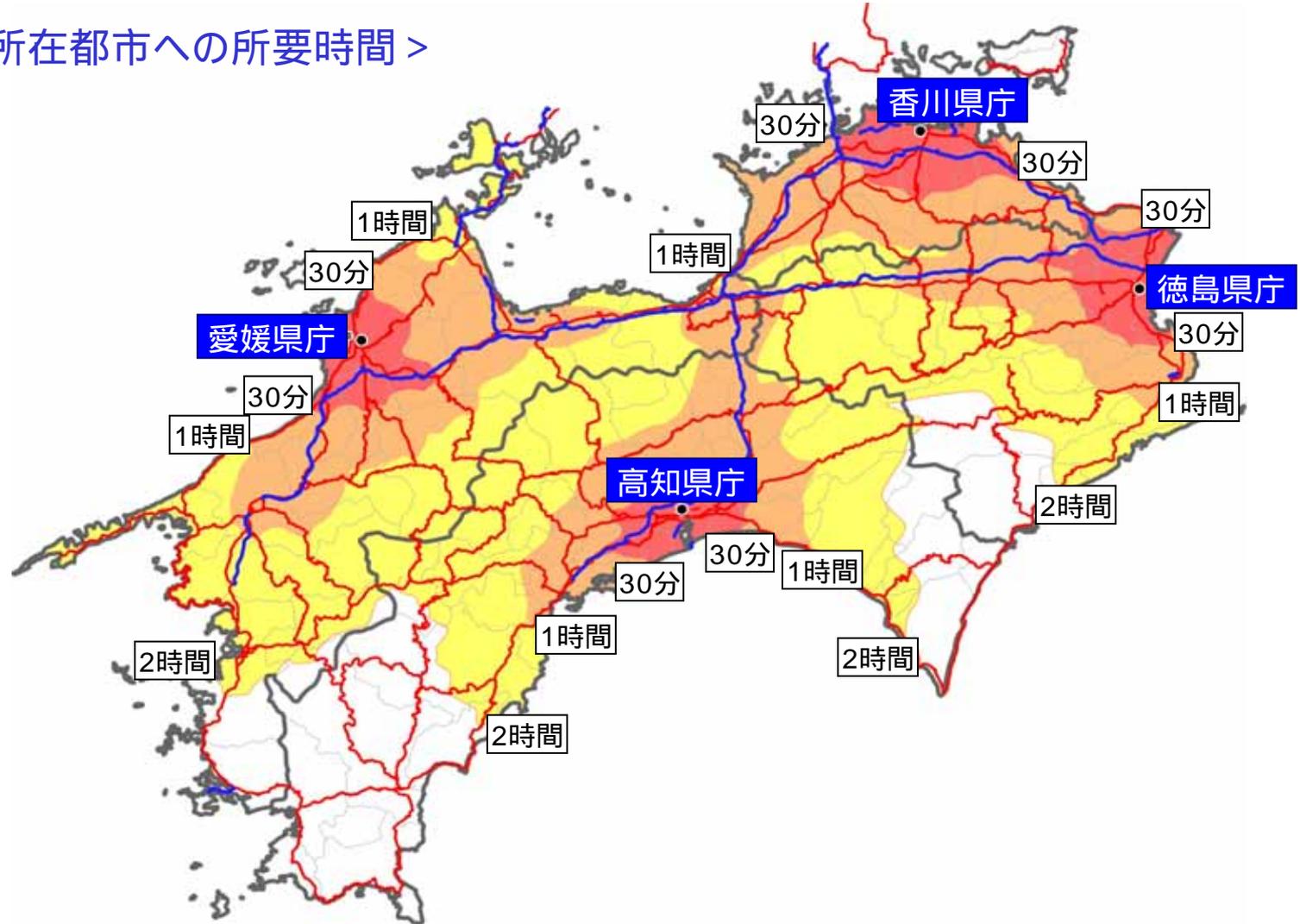
ボランティア・サポート・プログラム 地方ブロック別の実施団体数



1.四国の特徴

地域の集落から、概ね90分で県庁所在都市まで交流が可能となっている。
(ただし、南四国の半島部からは遠くなっている)

< 県庁所在都市への所要時間 >



2.四国の課題

全国に先駆けた人口減少や少子・高齢化の進行

災害や環境に対する懸念

豊富な地域資源に対する活用の不十分さ

四国内における結びつきの弱さ

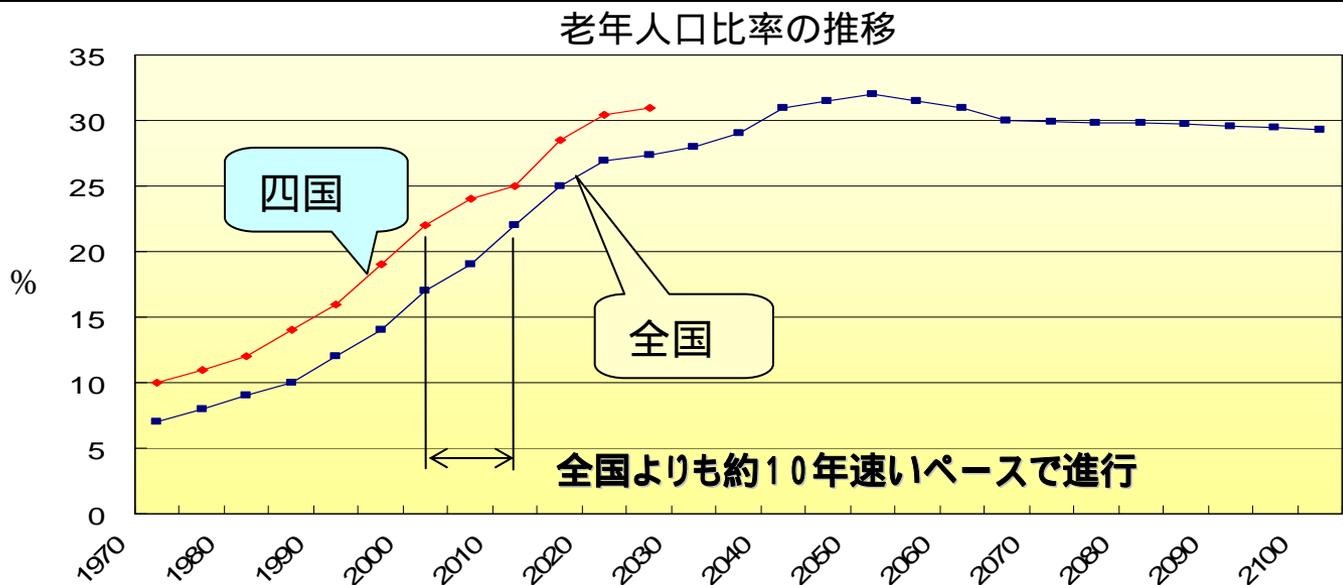
中山間地域や島しょ部における過疎化の進展・限界集落の拡大

2.四国の課題

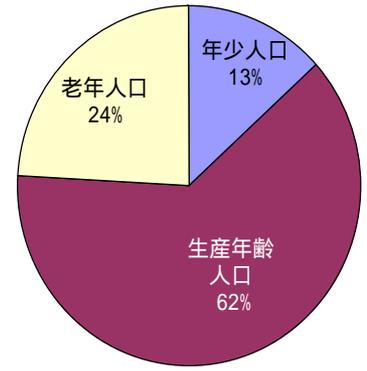
四国の課題 全国に先駆けた少子・高齢化の進行

全国に先駆けた少子・高齢化の進行

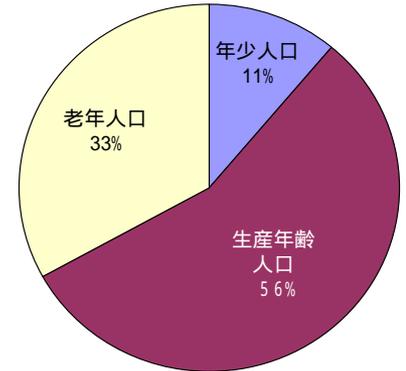
- ・四国では、全国よりも10年早いペースで高齢化が進行している。
- ・老年人口は、2030年に33%、年少人口は11%となり、少子・高齢化が進行すると推計されている。



四国ブロック 2005年 人口構成比



四国ブロック 2030年 人口構成比



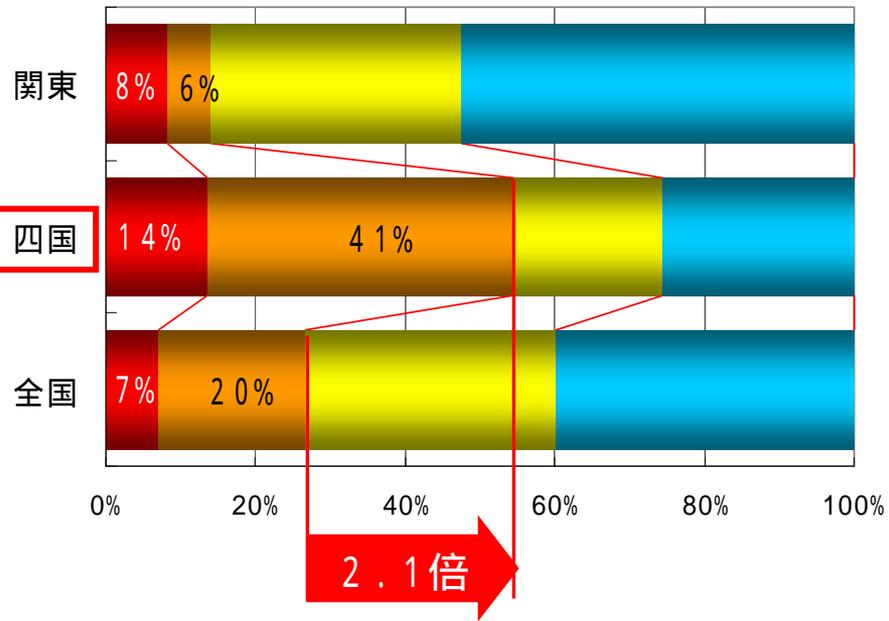
資料:総務省「国勢調査」
国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」、「都道府県の将来推計人口」

2.四国の課題

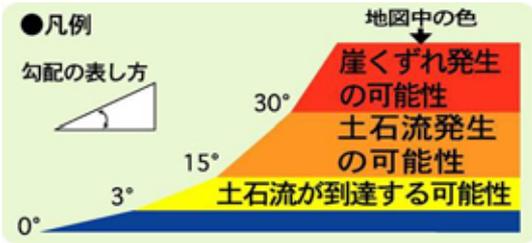
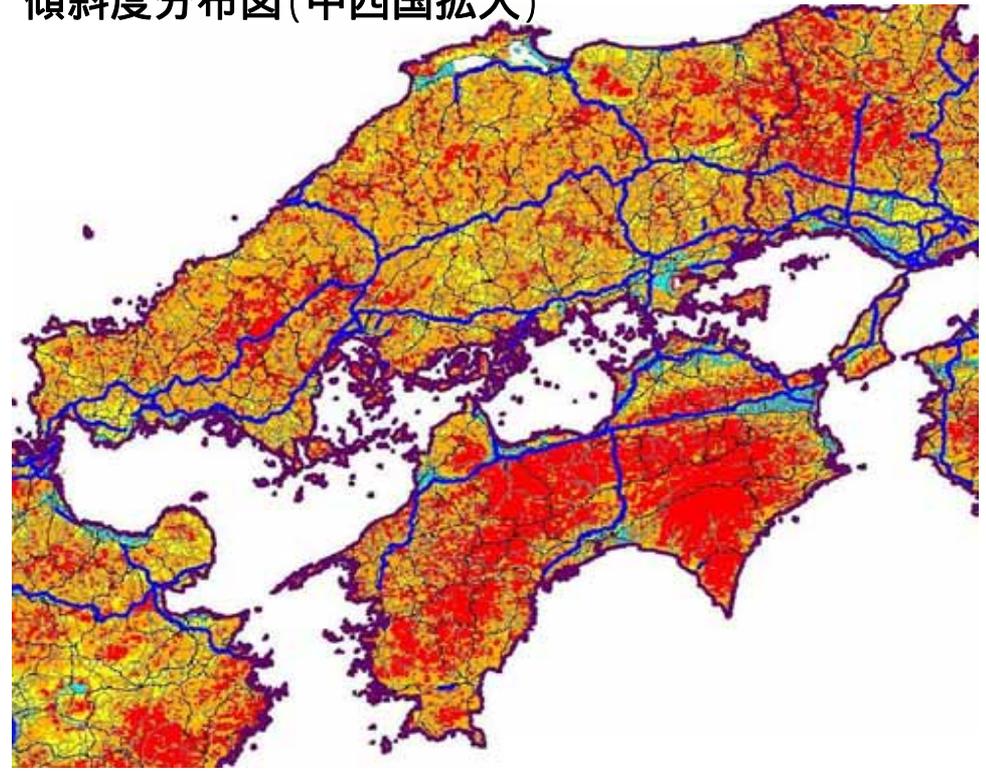
四国の課題 災害や環境に対する懸念

急峻で危険な地域に暮らす人が半数以上
・人口は全国平均の2倍以上、関東地方の約4倍
・土石流が到達する可能性のある地域を含めると、7割以上

傾斜度別 人口割合



傾斜度分布図(中四国拡大)



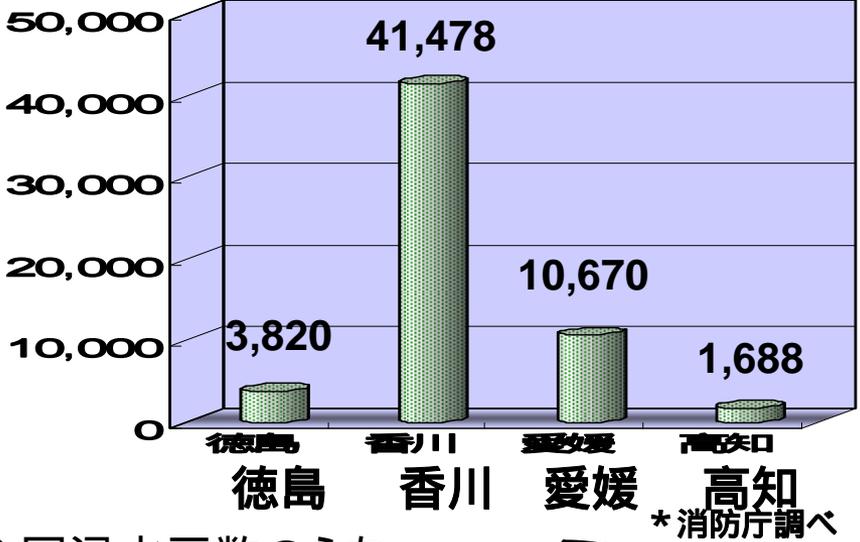
出典:「昭和57年度国土数値情報作成調査」による「地形,傾斜度別面積」
傾斜度分布図:四国地方整備局作成

2.四国の課題

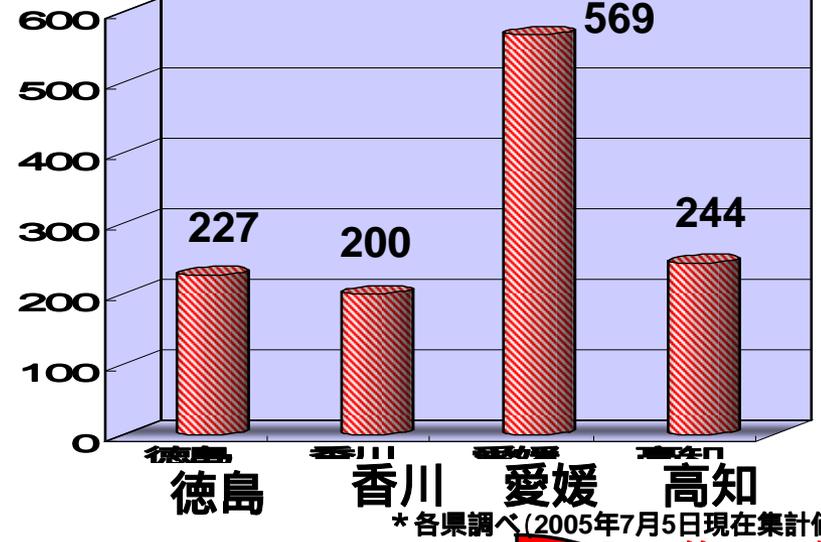
四国の課題 災害や環境に対する懸念

台風や集中豪雨などによる洪水
 ・平成16年：豪雨災害での事例

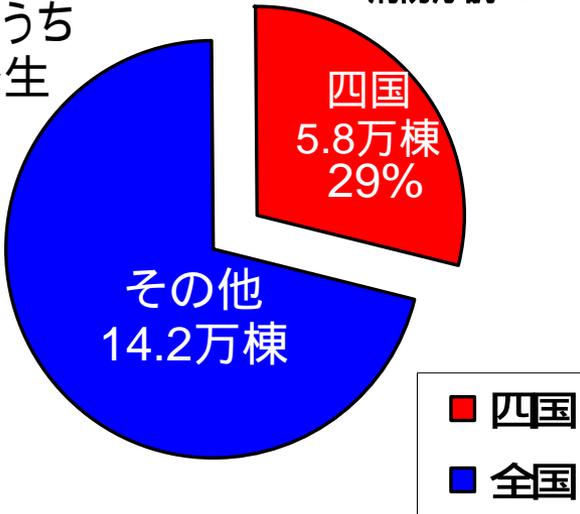
延べ約5万8千棟が浸水



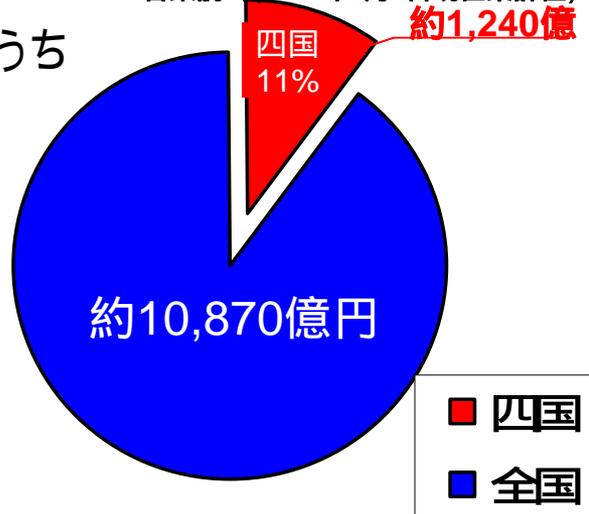
約1,240億円の水害被害額



全国浸水戸数のうち
29%が四国で発生



全国水害被害額のうち
11%が四国で発生



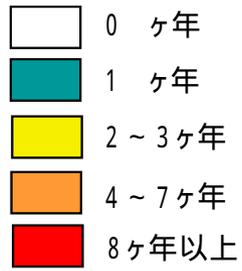
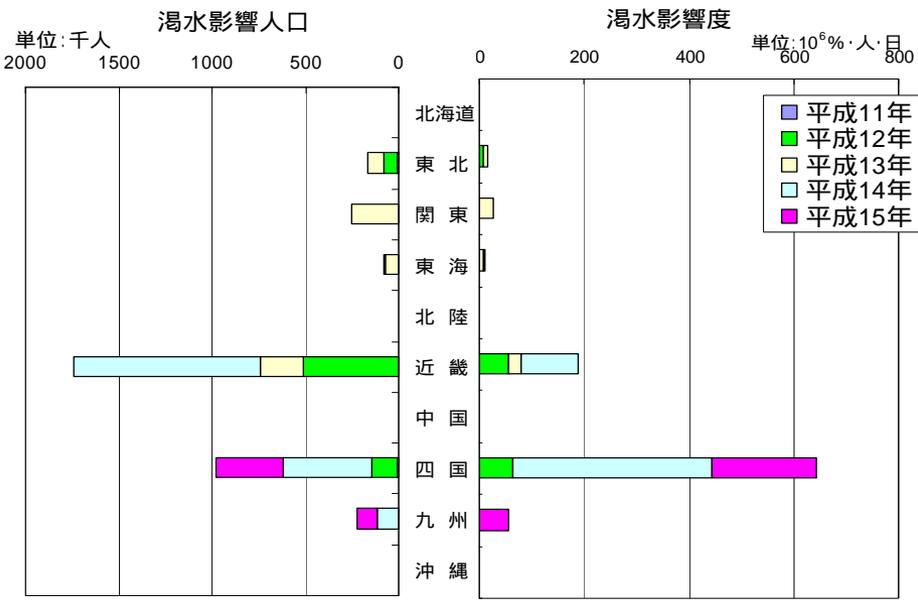
2.四国の課題

四国の課題 災害や環境に対する懸念

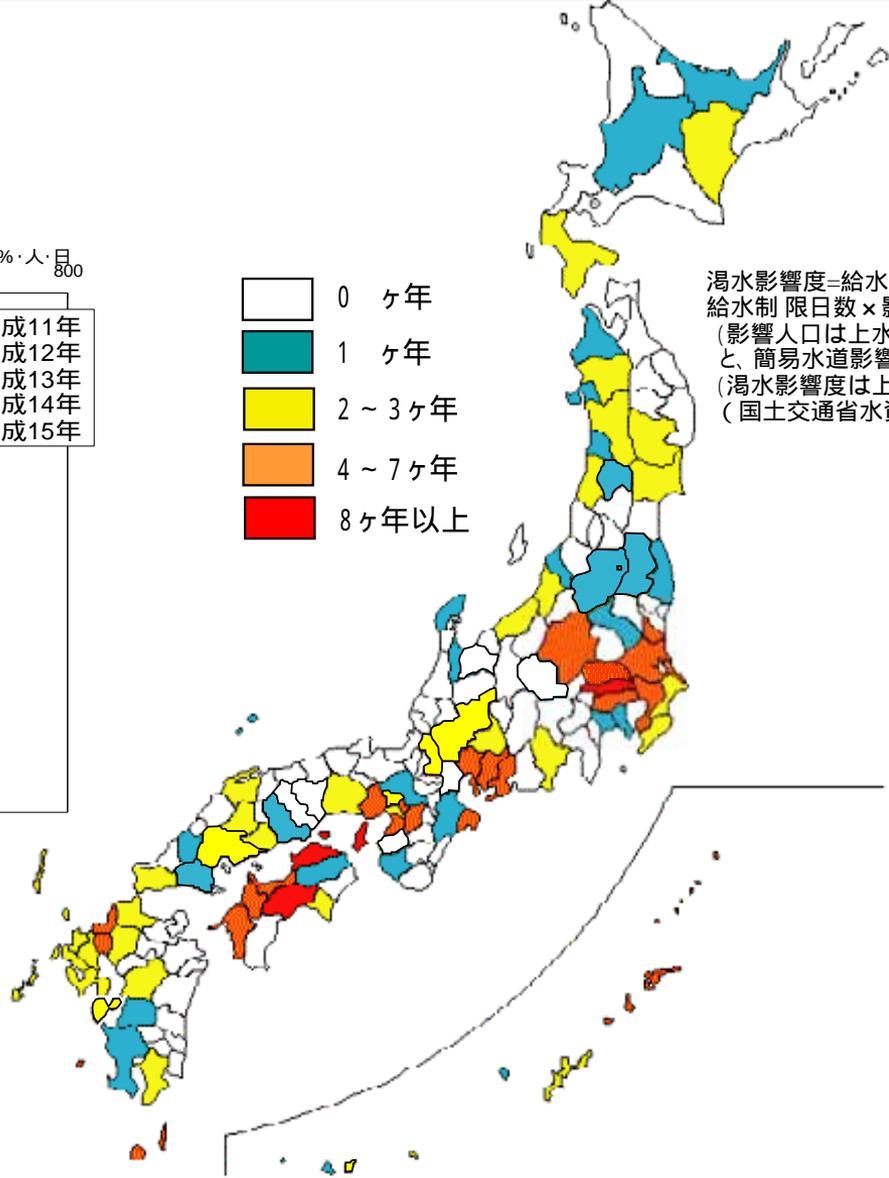
瀬戸内海側の頻発する渇水

< 渇水被害 >

過去5年の被害状況



渇水影響度=給水制限率×
給水制限日数×影響人口の和
(影響人口は上水道影響人口
と、簡易水道影響人口の和)
(渇水影響度は上水道のみ)
(国土交通省水資源部調べ)



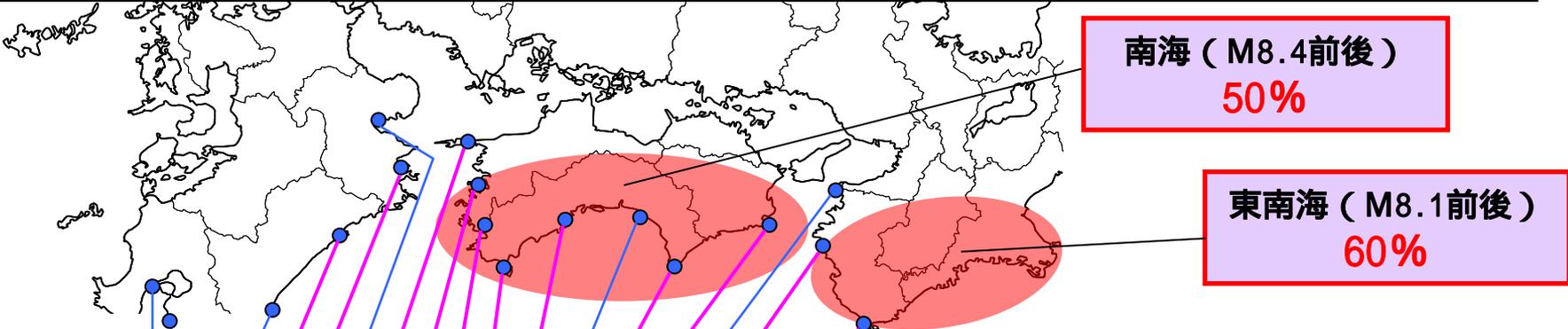
最近20年で渇水の発生した状況

2.四国の課題

四国の課題 災害や環境に対する懸念

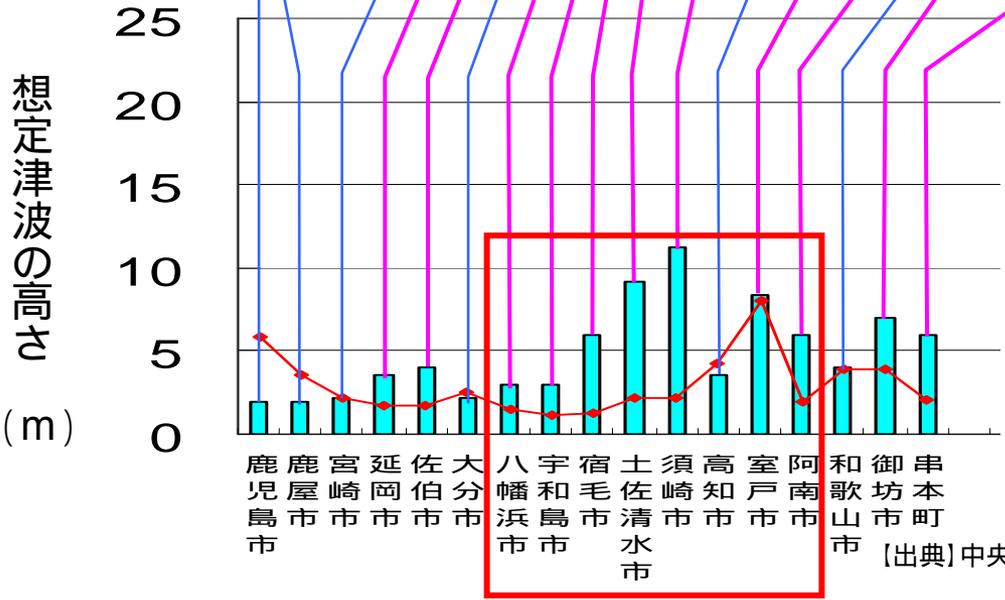
東南海、南海地震にたいする不安

- ・今後30年以内に南海地震が発生する確率は50%
- ・東南海・南海地震に伴い、太平洋沿岸において、3m~11m程度の高さの津波の来襲が想定されている。



南海 (M8.4前後)
50%

東南海 (M8.1前後)
60%



東南海・南海地震による被害想定

死者数:約22,400人
 経済被害:約57兆円
 (うち直接被害 43兆円)

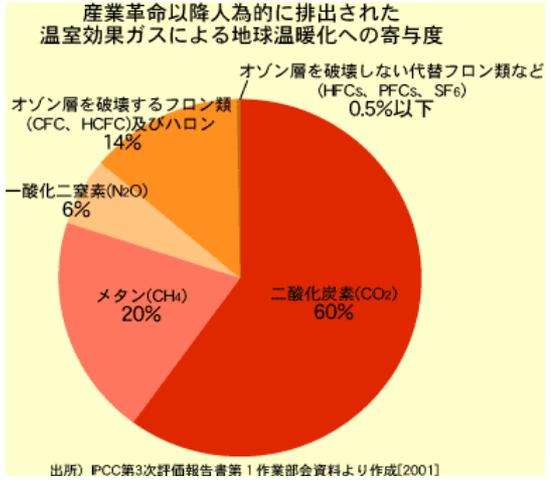
【出典】中央防災会議資料、津波・耐震調査結果(H16.5月)を基に港湾局作成

2.四国の課題

四国の課題 災害や環境に対する懸念

地球温暖化、瀬戸内海等の環境に対する懸念 ・地球温暖化、瀬戸内海の海ゴミ等の問題が顕著化

地球温暖化への原因は二酸化炭素によるものが、60%

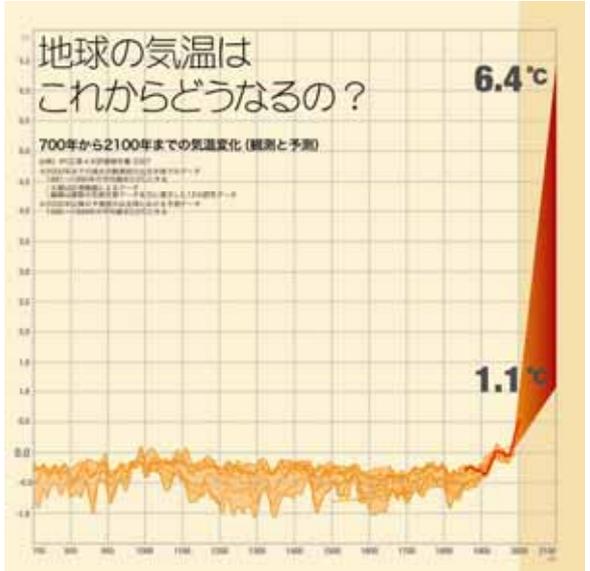


海上に浮遊するゴミ



海岸に打上げられたゴミ

2000年以降の予測部分は1980~1999年の平均を0.0°Cとしたもの



2. 四国の課題

四国の課題 豊富な地域資源に対する活用の不十分さ

豊富な地域資源に対する活用の不十分さ

・四国の地域資源が十分に知られていない。

< 四国内外住民の認知度 >

四国外でもよく知られているもの

	認知度(%)	
	四国内	四国外
讃岐うどん	100	99.2
阿波おどり	100	99.1
四万十川	99.7	97.9
鳴門の渦潮	99.7	96.9
金比羅宮	100	88.1
道後温泉本館	100	86.2

四国外ではあまり知られていないもの

	認知度(%)	
	四国内	四国外
内子の町並み	87.3	30.2
吉野川のラフティング	74.4	29.0
脇町うだつの町並み	81.0	29.0
イサム・ノグチ庭園美術館	62.7	26.7
大塚国際美術館	77.7	21.3
現代アートの島 直島	69.7	19.1

< 宿泊を伴う国内旅行者意識調査 >

来訪者の満足度 (%)		
1位	沖縄県	91.8
2位	高知県	86.5
3位	青森県	84.3
4位	京都府	83.5
5位	北海道	83.3
6位	長崎県	83.1
6位	鹿児島県	83.1
8位	熊本県	81.9
8位	大分県	81.9
10位	秋田県	81.6

20位 徳島県 78.7

21位 愛媛県 78.2

36位 香川県 73.7

今後の来訪意向 (%)		
1位	北海道	43.3
2位	沖縄県	38.3
3位	京都府	19.2
4位	東京都	9.9
5位	長野県	7.5
6位	鹿児島県	6
7位	長崎県	5.4
8位	大阪府	5.3
9位	青森県	5.1
10位	福岡県	4.7

17位 高知県 3.3

27位 香川県 2.5

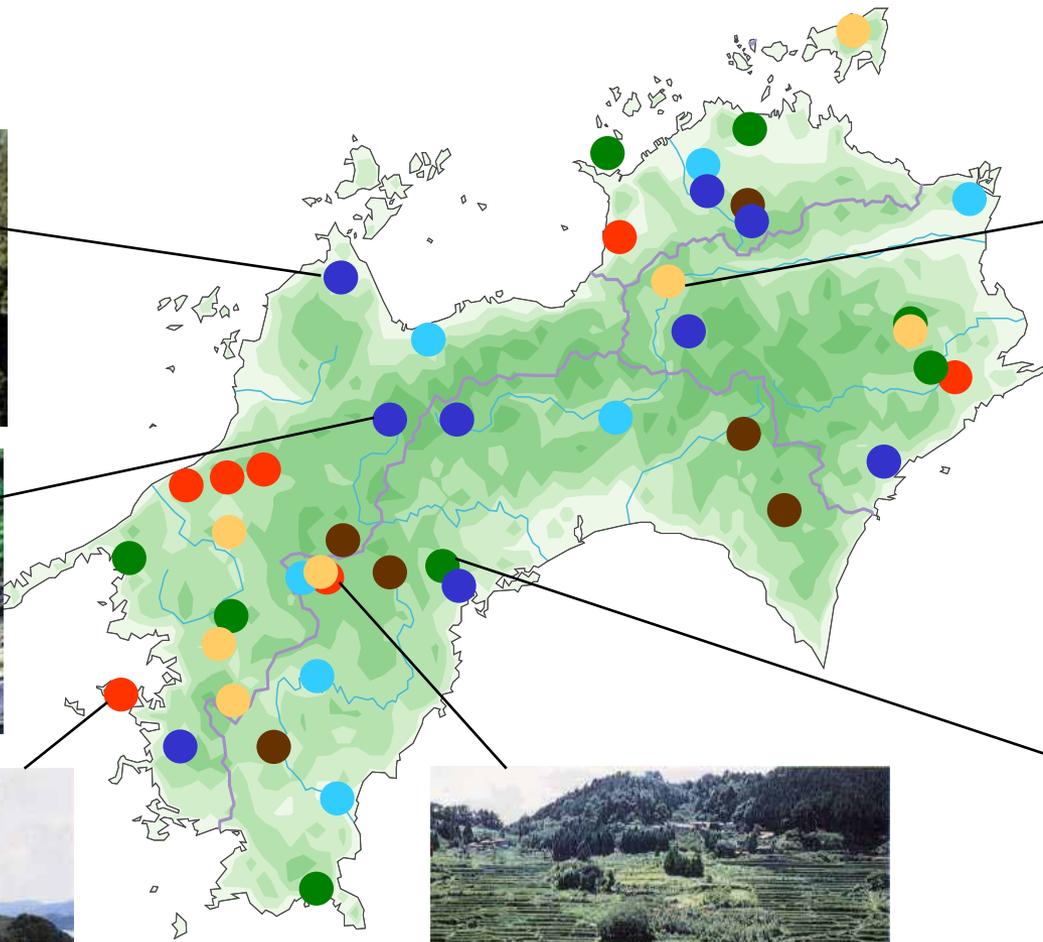
37位 愛媛県 1.5

43位 徳島県 1.3

2. 四国の課題

四国の課題 豊富な地域資源に対する活用の不十分さ

・四国には、多くの地域資源が存在するが十分活かされていない。



- 美しい日本のむら100選
- 水の郷100選
- 森林浴の森100選
- 森の巨人たち100選
- 水源の森100選
- 日本の棚田100選

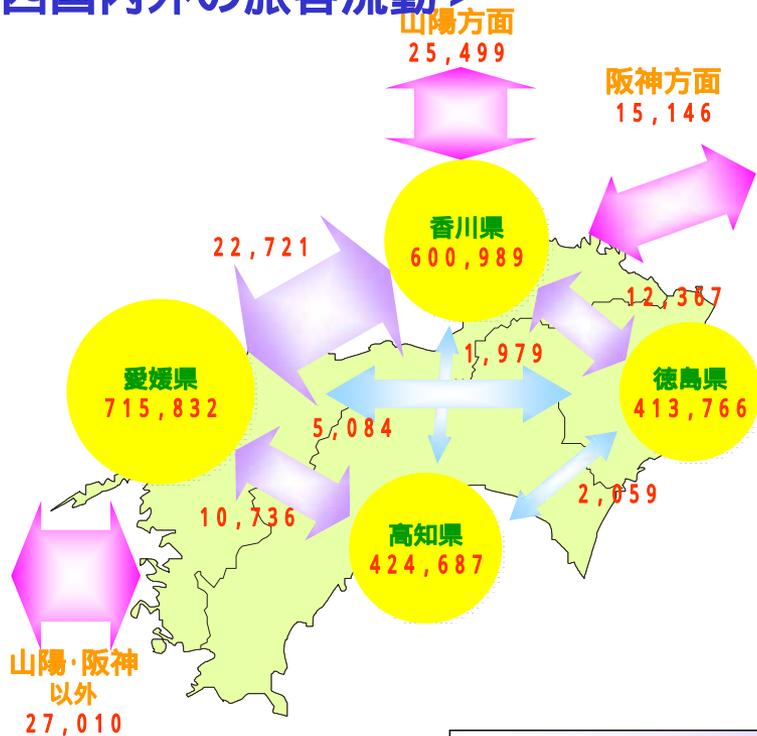


2. 四国の課題

四国の課題 地域内における結びつきの弱さ

- ・旅客流動は県内が9割以上を占め、四国内県間よりも四国外流動が多い。
- ・四国内の移動が少ない
- ・貨物流動についても、四国内県間よりも四国外流動が多い。

< 四国内外の旅客流動 >



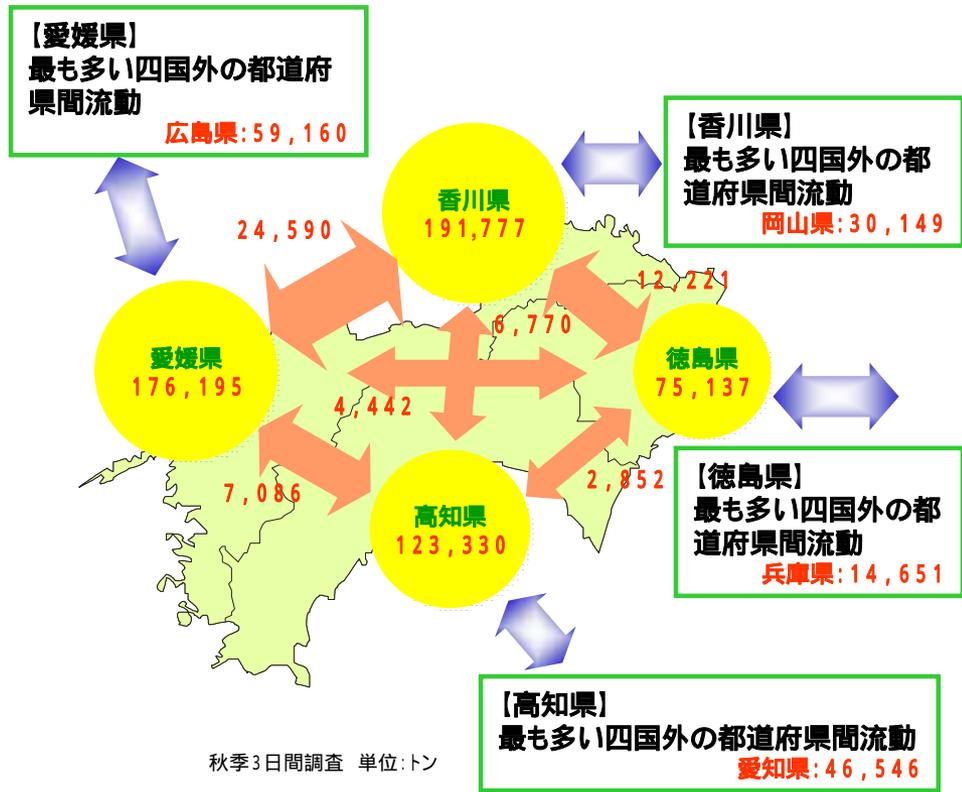
	流動 (千人)	割合 (%)
県内	2,155,273	94.6
四国内県間	54,945	2.4
四国外流動	67,655	3.0
合計	2,277,873	100.0

旅客流動の95%が県内流動
 四国4県相互の県間流動よりも
 四国外との流動の方が大きい
 (3%)

↓

**四国4県は、四国内より
 四国外を向いている**

< 四国内外の貨物流動 >



資料)「旅客地域流動調査(国土交通省/H7~12年度の平均)より作成(単位:千人)

資料)国土交通省 第7回全国貨物純流動調査(物流センサス)(2000年)

2. 四国の課題

四国の課題 地域内における結びつきの弱さ

交通ネットワーク基盤の整備が不十分

・高速道路空白地帯の「安心」と「活力」の両面を支える「四国8の字ネットワーク」が未完成



地震による津波の予想浸水箇所は、ミッシングリンク
(高速道路等未整備区間)に集中。

2. 四国の課題

四国の課題 地域内における結びつきの弱さ

・四国内の人も体験が少なく、あまり四国内を見ていない。



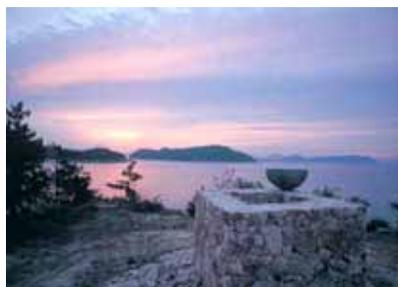
うだつの町並み（徳島県）



大塚美術館



吉野川のラフティング



香川県直島

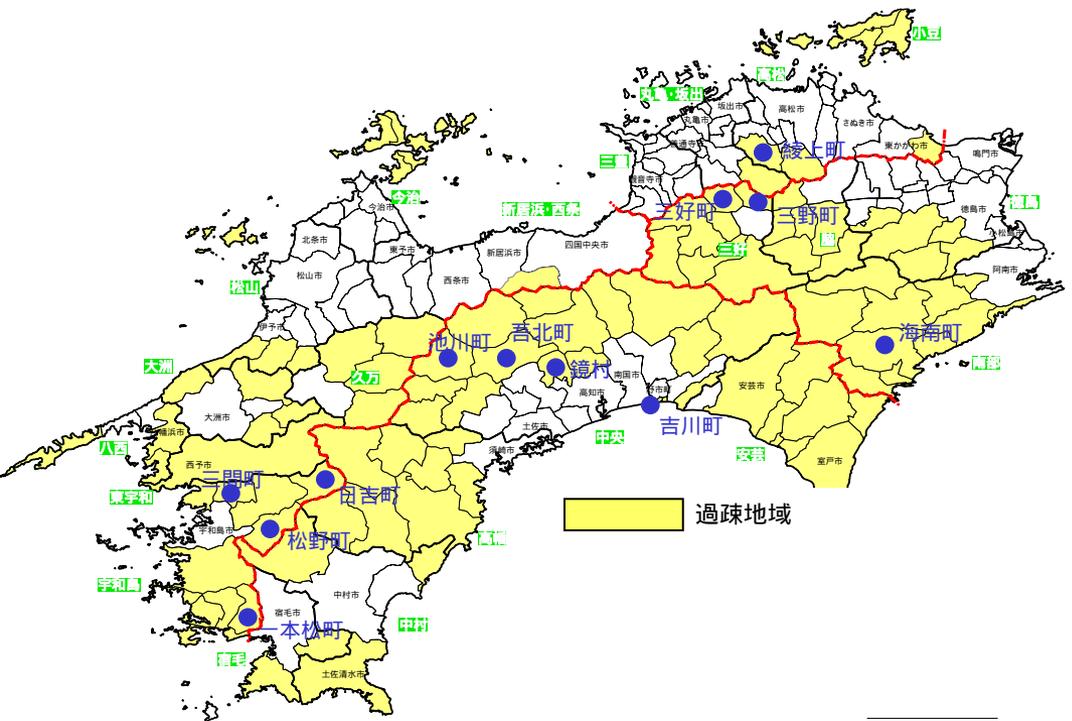
< 四国内住民の認知度・体験度 >

	認知度(%)	体験度(%)
内子の町並み	87.3	47.5
吉野川のラフティング	74.4	5.7
脇町うだつの町並み	81.0	41.1
イサム・ノグチ庭園美術館	62.7	5.7
大塚国際美術館	77.7	23.0
現代アート island 直島	69.7	13.6

2.四国の課題

四国の課題 中山間地域や島しょ部における過疎化の進展・限界集落の拡大

・香川県を除く3県は、過疎地域市町村割合が半数を上回っており、中山間地域に集中している。
 ・過疎地域市町村の人口は、四国全体の約20%を占めている。



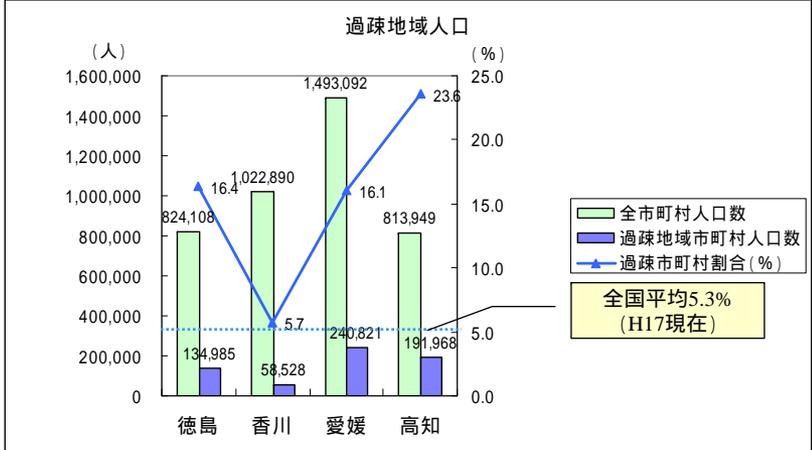
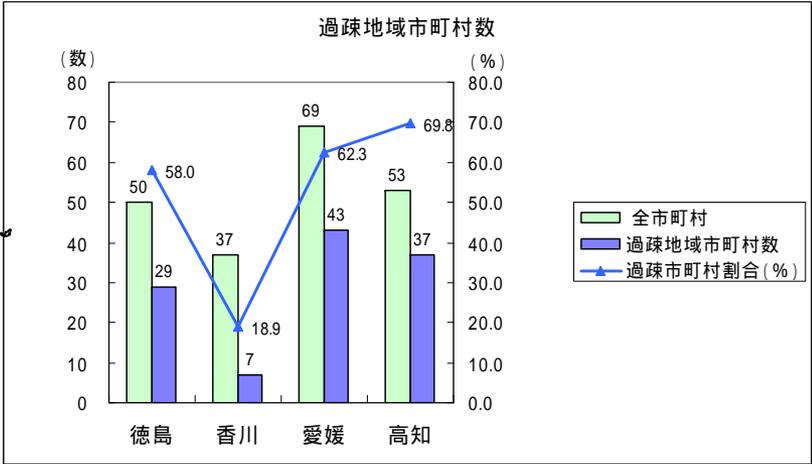
【過疎地域の要件】 資料:総務省自治行政局 過疎地域市町村等一覧(H17.2.1現在)

人口要件

- ・昭和35年(40年)から平成7年(12年)までの35年間の人口減少率
 - A 人口減少率が30%以上
 - B 人口減少率が25%以上で、平成7年(12年)の高齢者比率が24%以上
 - C 人口減少率が25%以上で、平成7年(12年)の若年者比率が15%以下

財政要件

- ・平成8年度(10年度)から平成10年度(12年度)の3か年平均の財政力指数が0.42以下



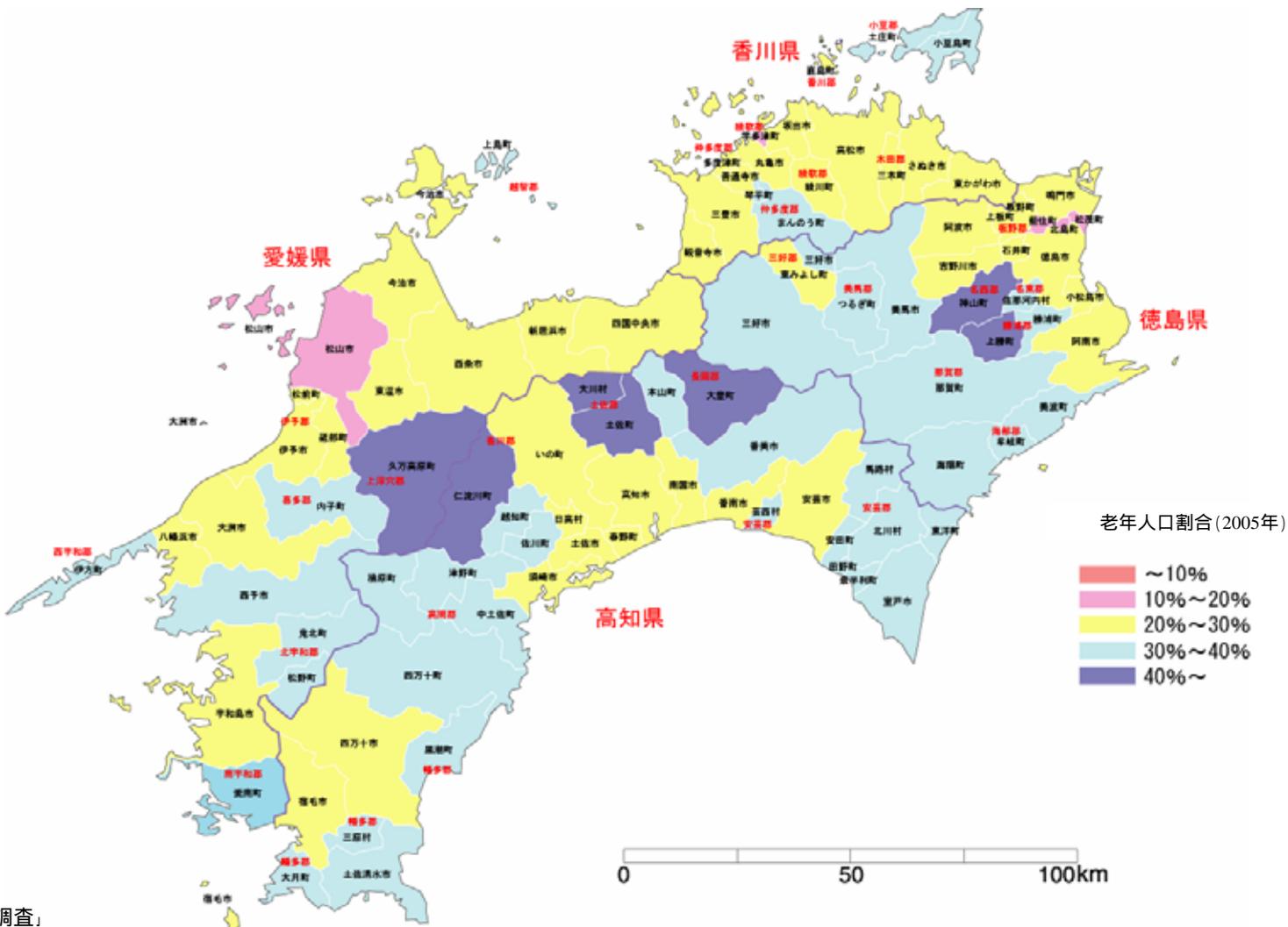
資料:都道府県別過疎地域市町村の状況(2002年)

人口統計資料(2004年版)

2.四国の課題

四国の課題 中山間地域や島しょ部における過疎化の進展・限界集落の拡大

各市町村別の老年人口割合
 ・老年人口割合の特に高い地域は、中山間地域に集中している。



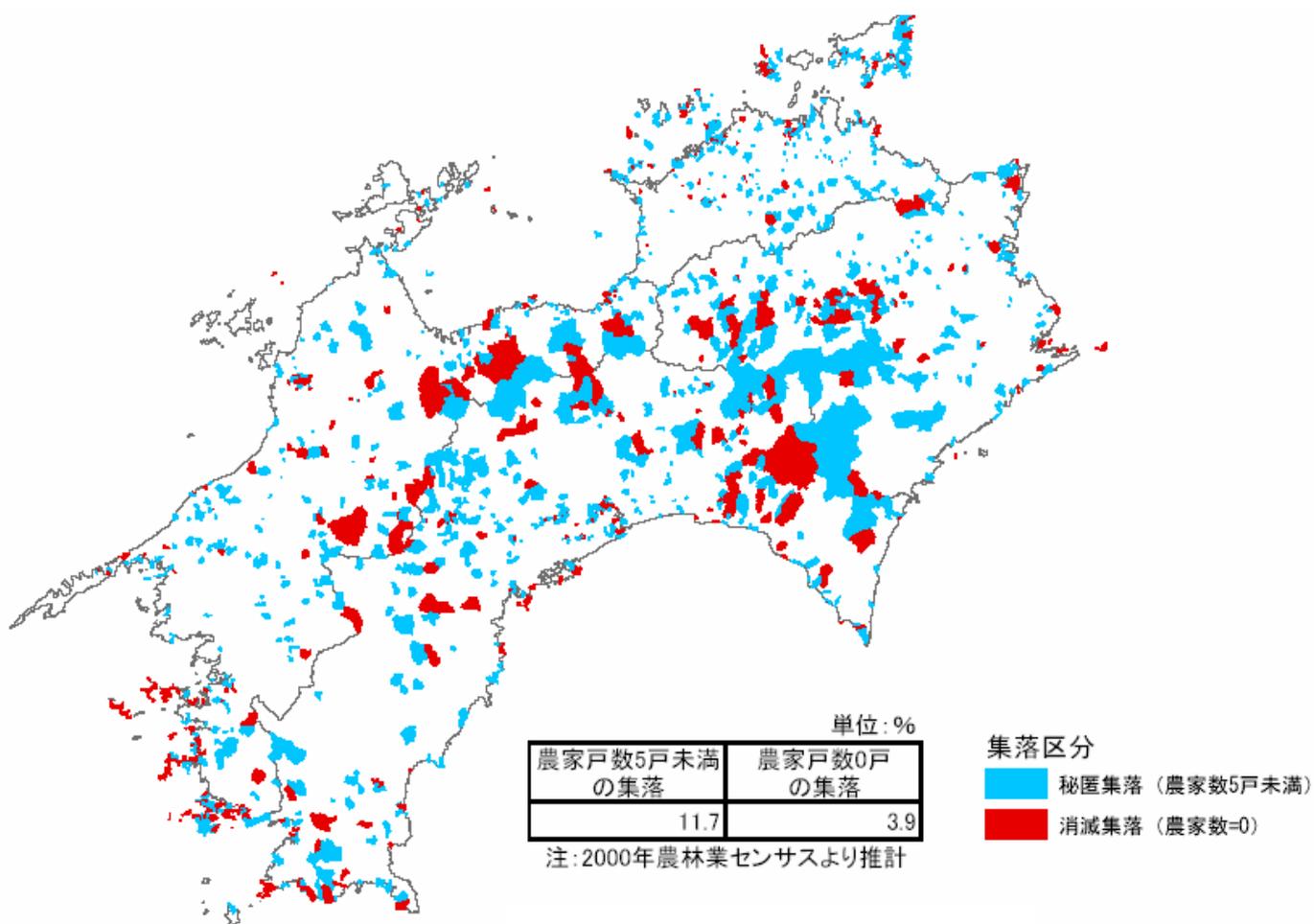
資料:総務省「国勢調査」

2.四国の課題

四国の課題 中山間地域や島しょ部における過疎化の進展・限界集落の拡大

農家数5戸未満の集落の状況

- ・四国の農村集落(約1万集落)のうち、消滅集落(農家数0)が3.9%、秘匿集落(農家数5戸未満)が11.7%存在している。
- ・これらの集落は、中山間地域に多く分布している。



2.四国の課題

四国の課題 中山間地域や島しょ部における過疎化の進展・限界集落の拡大

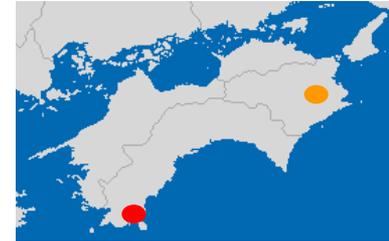
国土の荒廃の拡大が問題

手入れの行き届かなくなった人工林



● (高知県土佐清水市)

雑草で覆われた棚田



● (徳島県上勝町)